

夢のたねを楽校おもせ



令和8年7月16日(木)第8つづ



心豊かに成長しています

校長室で執務をしていると、まるで映画のワンシーンを思わせるような子供たちの心地よい歌声が響いてきます。

4月から子供たちの様子を見ていますが、面瀬の子供たちはよく声が出て、みんな素直で「のびのび」とか「のびやか」の表現がぴったり当てはまる実に健康的な子供たちです。

本校の学校教育目標は、

「豊かな心を持ち たくましく 共に生きる児童の育成」

気仙沼・面瀬の豊かな山、川、海を始めとする自然環境、協力的な保護者の皆様をはじめ、気さくで人間味あふれる地域の方々、そういった環境を存分に生かした教育活動を通して、子供たちも心豊かに育っていると感じています。

前号で紹介した「おもせ夢の水族館」を設置してくれた亀谷征功さんは、私が水槽を眺めながら、「この水槽にいる33種類もの生き物はそれぞれ、いきいきと生活を営んでいますね。」と言うと、次のような言葉を返してくれました。

「多様な生き物が共存できることは、その環境が豊かである証拠なのです。」

それぞれが個性や特徴を持ち、同じ空間の中で影響し合いつつ、生活を営み、活動し、共に成長していく。面瀬の子供たちも同じだなあと感じています。

いよいよ子供たち待望の夏休みを迎えます。夏休み前集会では、「夏休みの一か月間も、“安全のたね” “一生懸命のたね” “楽しくやるたね”を自分自身で育ててくださいね。校長先生、一か月後、みんなのたねがどのくらい大きく成長したか楽しみにしています。」と伝えたいと思います。

夏休み前までの保護者の皆様、地域の皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

自立・自律の夏、挑戦の夏、・・・夏の日差し、夏雲や夏風を感じながら、思い思いの夏を過ごし、更にたくましく成長してほしいと思います。



World cup から 志(こころざし)のたね

6月11日から始まったサッカーワールドカップもいよいよ大詰めです。

今大会、日本代表は「最高の景色を2026」のスローガンを掲げ、世界の頂点を目指して強豪国に挑みました。サッカー王国ブラジルに惜しくも敗退したものの世界の頂点を目指して戦う日本選手の姿は強く印象に残りました。

私が小学生だった頃、日本国内においてサッカーはメジャースポーツではありませんでした。もちろん、ワールドカップに出場することもできませんでした。

1993年にJリーグが開幕し、その5年後にワールドカップ初出場。2002年に開催された日韓大会では決勝トーナメントに進出。以降、日本代表は8大会連続して本大会に出場しています。

今や若い年代から海外のクラブで活躍する選手も多くなり、Jリーグ開幕からこの30年間で日本サッカーの競技レベルは飛躍的な進化をとげ、世界水準へと成長し、ワールドカップ「優勝」の言葉が現実味を帯びるまでになりました。

決して順風満帆な道のりではなく、むしろ「あと一步の敗北」を糧にしながら、「あと一步先の景色」を目指してチャレンジを続ける日本代表からは「志」の大切さを教えてもらっている気がします。



先日のお話朝会では、「志」の漢字の成り立ちについてお話ししました。

「志」を形作る「士」はもともと「足を向かわせる」を表す「之」が当てられ、だんだんと「士」に変化したのだそうです。そして「心」は心臓の形から変化したもので、文字通り「心」「気持ち」を表します。

つまり「心の向かうところ」と書いて「志」。

面瀬の子供たちにも、きっとそれぞれこうなりたい、こうしたいという「思い」や「志」があると思います。

それぞれの「志のたね」が大きく育つよう、土を耕し、水となり、日光となり、その育ちを楽しみにしながら応援していきたいと思います。

